京城日報

十五日夕刊

莫市過激派反對

憲法議會を擁護せんとす

莫斯科市會に過激派反對……自由を民意の爲め憲法議會を擁護せん事を決議せり

過激派上院解散

に露國上院の解散を……政府更員を補……

東清員罷業決議

に過激派の任命せる警務官……同盟罷業を爲す事に決議せり

南北妥協條件打電

舊國會不恢復に南北同時に停戰

……總統は南北妥協條件に關し……て恢復すること能はず……私議せんとせば南北兩派同時に完全に停戰するを要す……

總統各省に勸告

……て協力一致國是を定むべきことを勸告せり(北京特電)

廣東軍潮州包圍

潮州は廣東軍の包圍する處となり情況一切不明なり……(北京特電)

兩將軍漢口と浦項へ

……日天津より山東に赴り更に徐州に到り……結果張敬堯氏は第七師を率ゐ……は第五師を率ゐ津浦線に依りて浦項に向ひたるが……爲め多忙を極めつゝあり(北京特電)

米未曾有の豐作

米國本年度の……未曾有の豐作なり(紐育特電)

時局對應策講究

外交調査會開會か

帝國政府は露國の形勢今後如何に變化すべきか殆んど豫測す可からず或は如何なる條件の下にて獨墺單獨講和成立するや測り難きに依り時局對應策講究の爲め近く外交調査會を開催す可しと(東京電報)

保證準備擴張費

來期議會に提出さる可き保證準備金の擴張費は六千萬圓程度ならんと(東京電報)

上海造幣試驗局長任

……(東京特電)

王總理の感慨

總理就任事情

……の心事察するに足らんか……予は年少にして武備學生となり……當時は年少氣鋭天下の事爲す可か……

造船材料自給

遞信次官談

……

下賜金傳達

京城府にては十三日午後……

技術官會議

……

東京より

露國の反動時代一將に到らんとす

東京　一記者

……

獨大攻擊期迫る

……

英首相意見聲明

……

浦市の借款申込み

松田銀行部に對し……

重役會議

……

驛屯土賣却說無根

……

旅團移轉披露

軍司令官邸の盛宴

……

木村理事歸東

……

技術官會議

……

鴨門隧道

中村精七郎氏……

鮮銀は研究中

……

下半期決算

……

美術界所見(二)

……

最近の露西亜（四）

愍む可き暗き人民よ

▲無理が通れば道理引込む露國の現状▲

露國の現状は混亂紛糾して總ての事が寸前を豫測し得ない、眼中國家も政見もないレーニン、派が無智蒙昧を煽動して

衆愚の力に依つて

◆◆政權に噛りついて居るのであるから眼中國家の存亡も國民の安危もない、暗黒世界とは眞に露西亜の現状を指したものであらうと思ふ、一體露西亜の國民には複雑な理屈を言つて聴かしても解らぬ、自由と言へば安逸を貪つたり階級制度を打消したりする事で平和と言へば群集が集つ…

過激派は理勢に挨だ

…の分配を追つたら其至は上官を虐殺したりする、斯樣に過激派は無智蒙昧な兵士や勞働者の集團に依つて有ゆる横暴を働いて居る…

露西亜の天下は今

眞面目に研判な下

[illegible]

平福百穂畫伯謹話

去十三日紀尾井町なる伏見宮邸に天皇陛下臨幸の際御前揮毫を辱うし天覧に供し無上の光榮を擔へる平福百穂畫伯は謹みて語つて曰く 行幸に於いて文部省美術展覧會の會場に於いて皇后陛下の御前揮毫を辱うし間もなく今回再び…光榮に浴したるは誠に恐懼の至りであるが私の拙い筆を以て辱なくも天覧に供し奉る事は誠に恐懼の至りで唯重ね重ねの光榮に感泣する計りであります（東京）

…競ひ合ふ事だ位にしか考へてゐない、過激派が赤い旗に『土地分配』『權力平等』『平和克復』『パンの分配』抔と簡單な文句を書き

街を押立てゝ歩く

◆◆と群集は天國から使が來た樣に狂喜して過激派へ過激派へ!!と附和雷同して了ふ、然しいざ土地の分配を行する生産の分配は什するかと問はれると具體的の成案がない、只共産主義は民衆の福祉を樹つる最善の主義である、人類は一切に於て平等である位の漠然とした理想に醉はされて其日暮しの勞働者や怠惰者や下層民などに喜ばれ相な事許り宣言して居るのであるから

久しい間虐げられ

◆◆◆居つた兵士や農民は有頂天になつて下女は主人を追出したり玄關番は主人に財産…

歐洲戰亂の終局が見たい

責任觀念の強い青山胤通博士

總督府醫官 森安連吉氏談

目下病勢危篤を傳へらるゝ青山博士に對し十四日授爵の御沙汰あり…總督府醫院に森安醫官を訪ねて其の話を聞く…

我等に對し

[illegible]

男爵を授けられたる青山胤通博士

…中々の元氣で談笑されて居られましたが五體のやせはもう目立つて居たその時既に日本食は如何も食道に閊へて不可ない洋食だと可い樣なことを云はれるので私は稲田君と

顔を見合せ

た位でしたが素人には解らないけれど吾等は食…

衰弱は強く

なつたので…すそれから一時輕快を傳へられた事も有りましたが遂に昨今の容態になられましたついこの八日には九州の安川へ行つてゐる先生の渡君がこちらに來ての話に『もう死ぬのはいゝ癌だといふことも氣づいてゐるが唯歐洲戰爭の局を見て死にたいと思つて居たつた、腦を犯されたら話も出來ないから今遺言も云つて置く』と云はれて居た相で

◆戰爭の終局が見たいさうした所にも先生のすべて…

美事に頸動脈を掻切りて

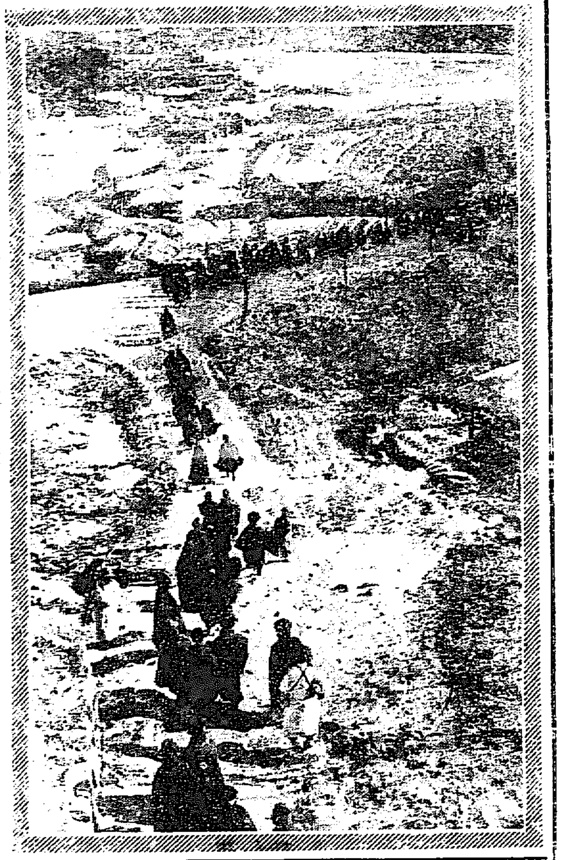
新町の情死

十二月十五日午前五時頃京城新町…高原駒太郎方階下裏二階の抱娼妓…の室にて同樓の…情死沙汰あり兩名共

▽鮮血に塗れて即死し居るを午前八時半頃同樓の仲居小澤きみが見して大騷ぎとなり急報に接し本町警察署より…巡査、長加々見警部補…檢視せり 女は十二月七日元山遊廓より樓に鞍替へしたる…廣島縣豐田郡忠海町生れの山本しづよ（二三）と言ひ男は京城本町五丁目下宿屋松屋事松田作太郎方に下宿中のものにて宿帳には元山泉町二丁目…

▽二枚重ねの蒲團を敷き細帶を以て固く…頸には更に黒毛斯の兵兒帶を捲付けあり最初に男が刃渡六寸許りある鋭利なる白鞘の短刀を以て女の前頸部を左右二箇所美事に頸動脈を切斷したる後更に心窩部に長さ二寸許り突き刺して

▽即死せしめ 返す刀にて己が右頸部に深さ骨に達する迄突き刺し只一刺しにて是亦頸動脈を切斷して即死を遂げ居れり而し…



一通の遺書

情死する迄

大の姉果て

京城市内に金銀鑛發見

場所は南大門驛裏

補助貨來らん

新延江の結氷

渡船交通不能

乘馬會忘年會

[illegible]

八雲琴（十四）

（淪落の女の末路）

Aは眼を閉ぢて暫し思ひに沈んだが又も文に眼を移した。

宵暗に聴く悲しき鳥の聲にも泣かされ候夕空に流るゝ雲に思を寄せて京城の空を眺め悲痛の涙に袖ぬらし候 平素の御寛大なる御胸に姿の罪は悪からず御許し遊ばされ今後好き機を見て奉天迄姿を連れゆかれ度く

◆若しも語げられなば如何なる苦労も厭はず候

…に目をの香華を怠らぬそして語り終つたAは更に言葉をついで『僕は成功の後乾度いさ子の伯父の博士に逢つていさ子の位牌を僕のうちで祭つてやろう』と云つたそしてAは仙人の樣な重い口調で『戀も無情とも色即是空とも云うが戀をする位苦痛な事はないが亦戀をする位の幸福もない僕が巨萬の富を得たら戀に惱む哀れな男女を救つてやるよ』と云つて淋しい笑ひをした（終り）

商況

新春市場漸く

債券現物特電

公債直取引

深川正米特電

東京期米特電

大阪株式特電

大阪三品特電

大阪期米特電

下關期米

雜報

綿糸布

鐵材底入れか

落掛物殆ど一段

下關相場

石油窯鍋下落

洋蠟値上げ

新價早晩下落

仁川期米

十五日前場 保合下値る

仁川穀物市場

金山穀物

仁川正米

南大門穀

大阪期米

仁川期米

讀者文藝課題及び募集規定

募集規程

天氣 晴れ

下關期米　十五日後場　[illegible]

▲當限一圓二十圓〆四錢二節五錢

仁川米豆取引所　十五日の二月限

連絡船上陸客　十四日午前釜山入港高麗丸一二等客　[illegible]

奉天市場の銀塊相場

奉天貨幣市場に於ける銀塊相場は去る十月末に於て四十三片臺を唱へ十一月に入つて一時持直し四十四片臺まで高貴せしも又復四十三片臺となり十一月中旬よりは愈よ低落して四十二片臺に止り爾來殆んど釘付け四十二三片臺を保合ひて越月せりこれが原因は米國に於ける銀塊輸出の金塊に比し自由ならざるによるものならんも更らに明年度に於ては英米兩政府の銀塊一億オンス買付あるべく支那各銀行また銀の準備と支那年末前に於ける地方銀錠の供給不足等にて上海相場も底堅かるべく最早これ以上の低落は期し難かるべしと觀測さるされば奉天に於ける小洋錢相場も引立たず常に九十五、六圓處を保合たるため取引彩なく錢業者方面の資金要要は著しく減少を見たり

叺製造の有望

米豆檢査實施後に於ける平南各地の改良叺需要は著しく激增し今や在荷拂底を告げ現時の如き郡山地方に之を仰ぎ平壤市場に於て二十七八錢を稱へ該品輸移出上多大の支障を來し居るの狀態にて當業者間に叺製造の發達漸く喧しく當局に對し之が救濟方法に就て其の前後策を訴ふるものあるに至りたるが之より先道當局に於ても農閑期を利用し農家副業として叺製造の有利なるを說き是が獎勵の任に當り本道產の米豆は叺を他地方より仰がずして道內製產を以て充當すべき方針の下に各郡に對し製造獎勵を行ひつゝありしが其結果愈々製造に著手すべき具體的成案を以て本月上旬より著手せしは大同、江西の二郡にして他の郡も目下準備計劃中なれば早晚一般に涉り叺の製造を見るべきや明かなれば何後に於ける米豆輸移出界に寄す好影響甚大なると同時に地方經濟上洵に喜ばしき現象と謂ふべし因に該事業の農家副業として郡の製產豫定表を見るに次の如し如何に有利なるかに就て茲に大同

集團的製造所十五箇所、原料藁準備量四十二萬千六百餘貫、製造機使用數一百三十臺、一臺平均製造見込高六百二十四枚、叺製造豫定二十萬八千九百二十枚、叺販賣見込額五萬千四百八十圓、原料藁價格一萬五千四百四十四圓、工賃純益金三萬六千三十六圓

慶北鑛業有望

慶尙北道星州郡盈德面所在弘益株式會社の經營に係る銅金銀鑛山は豫ねて同社に於て採掘中の處近來益々有望なるに至りたるに依り同地に事務所を建設し主任市川市太郎氏外數名は工夫四十名を督し採掘中なるが來春よりは更に百數十名の工夫を增加し事業を擴張する計畫中なるを以て附近勞働者及び關係地方の經濟上好影響を齎らすべく一般に期待されつゝあり

▲鷹島驛入安澤熊一外二名の名義を以て出願中なりし慶北醴泉郡栖谷面三色洞と江原道界に跨れる鑛區二十萬坪の採掘權は今回愈々認可せられたるに依り藤田組に於て引受け經營する事に協定し同組に於ては資本金五十萬圓を投じ簡易熔鑛爐を備へ來春早々採掘に著手する計畫なりと謂へば著手の上は同地方一帶の經濟界に多大の好影響を及ぼすべく同地方民は多大なる希望を以て迎へられ居れりと

鮮銀調節計畫

[illegible]同旅順、遼陽、鐵嶺、安東に於ける正金銀行引揚に伴ひ朝鮮銀行は安東を除く他所に支店開設のことなり目下兩銀行間に於て事務引繼中なるが過般來右四箇所に於ては正金銀行の貸出停止或は引締めの爲め一般商人の年末資金需要に彩から少恐慌を感じつゝあるを以て場合によりては鮮銀に於て支店事務開始以前にこれが調節を計るべき計畫ありと

四鄭線開通式　來春に延期

滿鐵本線四平街驛より東蒙古鄭家屯に通ずる四鄭線は既報の如く去る十一月三十日全通せるを以て十二月二十日頃盛大なる開通式を擧行する豫定なりしが最早や年末に迫りたると嚴寒の候に際したるとを以て明春溫暖の季節を選び盛大に擧行することゝなれり

奉天の鮮人

奉天日本總領事館管內（鐵道附屬地を除く）に居住せる朝鮮人戶口は十一月末現在にて男二百四十八人女百七十九人計四百二十七人戶口は八十戶なりと

鄭家屯の人氣

四鄭鐵道の開通に依り今や各方面の人氣は漸く鄭家屯に集中さるゝに到れるが同地從來の在留邦人は未だ見るべきものなく最近某々特產商の二有力者は同方面初荷の輸出を試みんとして已に店員を派遣し物資の買入を開始しつゝあり同鐵道局の調査に依れば鄭家屯一ケ年の物資集散は約四十萬噸にして之れが大宗たるは高粱小豆等なるが目下盛んに歐洲に輸出さるゝ粳米、豆の如き又大小麻子の如き製油原料も豐富にして同線貨物輸送の曉は鄭家屯の發達は急激に大膨脹を來たすべしと

長島丸無事歸港　行衞不明を傳へられし

滿鐵埠頭事務所營口支所所屬曳船長島丸が十一月三十日營口發大連に向け引揚げの途次行衞不明となりたる事は屢々電報したる處なるが同船は遼河滿鐵埠頭荷船の曳船

▲遼河は結氷期に近づき

なるが十二月下旬より流氷激しく入港船中止となり從つて曳船の作業も亦無くなりたる爲め大連に引揚ぐる爲め追出船長堀造機關長以下日本人二名支那人三名乘組三十日營口發大連に向け航行の途中暴風雨に遭ひ普蘭店近き

▲葫蘆山に避難したるが風は容易に凪がず且つ淺瀨を乘切り居たる爲め出港する事能はず此の旨通信の爲め堀添機關長上陸し附近の西中島日本警官派出所に訴へ出しが折惡しく菅野巡査不在なりし爲め其の旨名刺に書きて歸り其後二三日を經て菅野巡査歸所し

▲此の名刺を見て大に驚き直ちに船には白米三升を送り一方普蘭店警務所には支那人に手紙を持せて報告せしが此の手紙を持ちたる使者の乘船又途中にて風浪の爲め危くなり普蘭店に達する能はず遂に通信の途なく僅かに

▲救助船來る望みも絶たるを以て附近支那人より粟、卅錢等を買入れ結氷の用意を爲す內一方埠頭事務所にては同船の消息絕無なるを以て沈沒せるものとしよし又沈沒せざるまでも食糧は二三日分を用意せるのみなれば一同飢寒に斃れしにあらずやと氣遣ひ同船丸、遊海丸を出して搜索に從事し旅順要港部司令部よりは白鷹丸を搜索に出したりしが十一日に至り同島丸が先づ之れを發見し相率ひて歸港したり（大連）

奉天講武學堂

奉天張督軍は這回新たに東三省講武學堂を設立して中等程度以上の軍事教育機關となし優等生は卒業後北京の支那陸軍大學に入學せしむる筈にて張二十七師長及び軍機處長を設立委員に任命せり開校期は多分明年二月頃ならむと

本溪湖より

安東支局　一記者

前段他を云はんと欲して筆は又逆轉して本溪湖繁榮に及び候が、を以て今一つ申上ぐべく候、同地滿鐵地方事務所主任松尾氏の言を借りて如何に其の地が元氣旺盛、潑剌たるかを想見可致候、氏は曰く目下本溪湖在住者にして事務所に屆出でたるものゝみにて優に千數百名是れに未屆出者を加ふれば四千は易々たるべし而して六千乃至七千の人口を抱擁する蓋し一兩年を出でざるべく事務所は其の用意を以て著々準備を整へつゝあり云々と、而ふるに近來貝地との交涉漸次頻繁を增し彼の大運石本氏と支那側との合辦事業たる牛心臺炭坑の如き尙ほ改良擴張すべき點尠なからず又中央政府筋に於ては其の權利の如何に就き交涉を重ねつゝあるにも拘らず地元住民と資本家たる石本氏との間は極めて圓滿にて住民各々は喜んで同氏の使役に服し居る由是の如きは紙上の日支親善を更らにョリ有意味ョリ力強く兩國民を結合したる即ち日支國交上其の親善を形式化したるものとして轉た感慨に堪へざるもの有之候、其の他大倉組に於て[illegible]

は木材の[illegible]有之候、從つて滿鐵の如き[illegible]其の枕木の如き[illegible]候もの[illegible]により到底以前[illegible]是れを滿洲其の[illegible]を得ざるの狀態[illegible]安奉沿線は滿鐵[illegible]せしめたるもの[illegible]五萬本の供給[illegible]其の內一萬本は[illegible]にも其他坑木[illegible]漸く多き[illegible]亦大に其の目に慣[illegible]前述の如く四圍の[illegible]湖をして再び地開[illegible]進み居候、更に[illegible]進むなきも[illegible]鐵路の[illegible]日支合辦にして既に[illegible]間約三里は輕鐵を敷設し牛心臺の石炭を初め一般物資の輸送を營み居申候、或は本溪湖を東北に距る約七里、附近物資の集散地にして一度本溪湖の開通を見んか其の繁榮は一段の發展を見るべく又漸次に改築の計畫もある由なれば更に本溪湖は太子河に據る鐵道により一大商勢圈を張るに至らむ、近き將來にあらむことを豫想し候、人は擱筆に當り本溪湖の發展と其の地市民の努力と健康とを是祈る

水道の凍結せぬ方法　近く實行せられん

近來寒氣漸く酷烈の度を加へ來れる爲め市中何處へ行つても水道の栓が凍つて水が出なくなつて大困りであると云ふ小言を聞かぬ事は稀れである、乃こで一日地方事務所を訪問して『何卒凍らぬ方法はないものであらうか』と御尋ねすると係の方が云はれるには『此の頃の樣にアチラでもコチラでも凍つて出ないからとか破裂したから早く來て見て下さいとか云ふ電話をかけられるので水道係の忙はしさツたらありませんよホントーですよ此處の電話は此の水道係の專用と云つてもいゝ位ですその內で破裂の時などになると出掛ける迄に十度以上も同じ處から電話をかけられると云ふ始末ですからネー』

▲乃で私の方でも水道が凍らない樣にと云ふ工夫はいろ／＼試みて居りましたが昨年漸く此れならばと言ふ處まで研究して去る十一日の主任會議に提出して即決を得て直ちに著手する心算でありました處が本社の方で此の上ヨク研究した上にと云ふ事で此の頃は本社で大に研究中ださうですがそれでは惡うすると本年の間には合はない事になりますから目下當方で早く實行される樣にと云ふ交涉を重ねて居る最中です

▲殊に雨三日來水道の故障が頻々として起る樣では實際やりきれたものではありませんからネー』萬一二三日內に返事が來ぬ樣でしたら此方で交涉をして見る考へであります、其の凍らない方法と云ふのは別に大發明でも大創見でもありません只地上の水管に水氣がある爲めに凍るのですから此の水氣を拔き取る方法だけです、地下に入りますと大抵凍らないですから其の境目から上の水管內の水を拔き取り中を空にして置けばそれで十分です

▲それでも施工費は一ヶに就き七八圓を要しますから私の方では其の器具だけを貸付けて只加工手數料二圓乃至三圓位で希望者に取り付けて差上げると云ふ方法を執らうと思つて居ます、此の方法が出來ると皆樣も大變に御便利になる事と考へます』と是れで先づ水道の方の苦情はあらましなくなる事であらう（奉天）

長春雜俎

▲朝鮮人を恐喝す

[illegible]生れの西の宮定太郎（三二）と香川縣生れの奥田長助（三二）の兩人は一人は下宿に住み一人は東十道に家を持ち居るも共に無職でよからぬ徒なるが十一月の事東十三道九號地に住む朝鮮人[illegible]

▲邦人馬賊に襲はる

[illegible]

▲乞食の凍死頻々

[illegible]の長春名物乞食の凍死は昨今の如く零度以下二十幾度の嚴寒[illegible]來るより附屬地及び城內等に散在せる無數の乞食は烈寒に堪へ兼ね凍死する者の日々多數に及び城外死體捨場は今に凍死體の山を成し猾狼野犬が群を成すも近々の中ならん

白山黑水

▲奉天停車場の構內は此のごろの寒に何か／＼よく滑る▲十日の夜も鮮銀新市街出張所主任が下駄ばきのまゝ入口で美事な逆轉を試みた起きるからとしてまたツルリ▲モ一つは安奉線行きの婦人客が汽車の時間に迫つて足駄穿きで來てこれも落北狼藉の大横轉▲赤くなつて立ち直すさまたバッタリ▲たう／＼裸足のまゝに驅け出したとは氣の毒である▲敵方討伐と力みかへつて居る奉天の軍隊もまた天津飴にや南北の商議中で髀肉の嘆に堪へぬとか▲愈々となれば貧弱な一箇師團位るは京奉線で繰り出す積りらしいといふ▲奉天も愈々寒くなつた十一日の朝は戶外の氣溫が零下十九度▲お蔭で安奉線などは汽車が凍りつきさうになつて一時間からの發車延延▲停車中は停車場の構內から蒸汽を送つて居るがそれでも凍りつくさは猛烈である▲奉天の城內側總領事館の管內に居住する日本人は男が一千四百一人、婦人が一千三十八人合せて二千四百三十九人、女が三百六十三人不足となる（奉天）

演藝案内

本町五丁目　稻荷座　[illegible]

有樂館　[illegible]

明治町二丁目　浪花館　電話二六〇番　[illegible]

黃金館　電話二三六七・二三六六　[illegible]

櫻井町　大正館　電話八七三　[illegible]

りん病　急性慢性を問はず最新發見の最新藥配合　士發見のりん病の淋滅をお用ひあれば全治速なり　七日分一圓[illegible]　十四日分[illegible]　本藥は他店に御賣なし直接本舖に御注文あれ　京城黃金町三丁目　振替京城三三七番　山田文殊堂藥房

何故に本劑は一般に信用ありや　夫れは實質の善良なること効顯の確實なる結果である論より證據は實驗せられよ

内用　痔退丸

外用　痔退劑

定價　内用痔退丸　一週分三十錢　二週半分一圓　外用痔退劑同價　半週分五十錢　五週半分二圓

本舖　東京日本橋區上槇町　安川見榮堂　振替東京二四九一番

元金損なし年三割利廻り　大益金利　月々配當す　[illegible]　建物興產合資會社

小學兒童齒牙健康診斷無料　岡本齒科醫院　京城本町一丁目　夜間診療

年末の御進物には　鰹々豆とのりかき　京城本町　大和　電話四八[illegible]番

信券　六十七回勸業債券　四千圓　即賣　二十二圓五十錢　月賦　[illegible]　中野債券部

謹告　例年の通り　忘年會新年宴會、御正月重詰其他御料理御好に應じ可申候　右不相變御用命仰付被下度候也　京城南山町一丁目三番地　會席御料理　松葉亭　電話二三五番

滿七歲以下の小兒解熱藥　オイシン　理想的のかぜねつさまし　御子達ある家庭の必備藥　本舖　東京大阪　丹平商會藥房

景品付賣出し　十日より一月十日迄　皮より强い値の安い　專賣品柳製鞄　日ノ丸國旗附屬品　毛布二枚續き　三圓五十錢以上上物色々　防水布マント各種　魔法瓶及中瓶取替　鞄製造販賣　京城本町一丁目　高木旅行用具店　電話一三四番

外科　花柳病　内科　小兒科　婦人科　京城南山町二丁目　宮崎醫院　電話三〇六八番

左甚五郎

第百十四席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

短冊の拝け裳鋼を曳いて　母『男が一旦思ひこんだことは決して途中で止めることは出来ないものだからブラ下つておしまひ　短『へエブラ下りますか　母『だつてお前ブラ下る気ではないか　短『デハンロ〈ブラ下ります　母『少しお待ちて妾が宜い様に上げるから、気丈な阿母さんがあるので、[illegible]綱を持つて来てそれを[illegible]して[illegible]梁へ掛け　母『さア短冊、[illegible]上へ乗つて鐙を[illegible]へ掛け、[illegible]て其の鐙を[illegible]へ[illegible]すと[illegible]

たから何をするかと思ふと、直[illegible]表の井戸の前へ行つて[illegible]水を汲んで[illegible]人る[illegible]彫り始めた[illegible]出来るものではございません[illegible]の[illegible]してしまひ、[illegible][illegible]

[illegible]何時でも[illegible]は日を[illegible]いて見て居ります　母『何時[illegible]を開いて見て居るだらうが[illegible]に能く見開くなければ[illegible]申しますと云つて、幾何だと聞いたら五十両だ[illegible]つては叶けないよ　短『それは叶けませぬ、[illegible]彫つた物は二朱と極つて居るので　母『何[illegible]

目方でブラ下るからね　短『成程[illegible]母さん、苦しい時におやんなすつたか　母『馬鹿をお云ひで無い、彼お待ち、妾は未だ三年や五年は生きて居るつもりだが、逆さまながらお前から遺物を貰ひたいから何か彫つておくれ　短『へエ、穏な物を彫つて置きました　母『イヽヱ今までのある物では叶けない、何でもよい、お前が一番宜く出来ると思ふ物を彫つて置いて貰ひたい　短『何にも宜く出来るものはありませんが、何ういふものでございませう　母『遺物に狸は可笑しいぢやアないか、然うしておくれ、お前が平素から信心をして居るから観音様を全身彫にしておくれ　短『へエ　母『三寸五分位にして、是が此の世の形影でと思つて、一心になつて彫つて置いておくれ　短『へエ、それぢやア阿母さん、少し待つておくんなさいまし』と立上つ

[illegible]つた、大きにまア御苦労だつた、[illegible]で宜い、お前の銘を此の彩足の[illegible]へお打ち　短『へエ』短助といふ銘を刻しました　短『デハ阿母さん[illegible]ります　母『然うなつたら何時でもブラ下るが宜い、[illegible]に足を[illegible]の島田屋さんの[illegible]へ持つて行き[illegible]つて貰つてお出で　短『それは叶けません、彼[illegible]へは行けません、今[illegible]行うものならば未だ此の野郎ブラ下られねか、早く片付いてしまへと云ふに違ひございません　母『デ[illegible]モあらうが、もう是がお前の形[illegible]総ひであるから、何うか目を開いて見ておくんなさいと仕方うお云ひ

高麗人蔘エキス
京城本町一丁目　小笠原大薬房

外科　一般皮膚科　泌尿器科　花柳病科
院長　安部修三
京城永楽町二丁目金光教会隣
安部醫院　電話[illegible]一九[illegible]番

法人登記公告
水原地方金融組合[illegible]
右大正六年拾壹月拾七日登記
京城地方法院水原支廳

模範　**牛乳**　ニウソ
京城[illegible]
東亜牧場　電話[illegible]

軍隊毛布
必ず買い遅れて後悔する[illegible]ロシア軍[illegible]
東京[illegible]

「酵母」の[illegible]

急告
近来[illegible]
京城[illegible]

M印　ゴムマリ

胃病には　マーゲン
本剤の特色
[illegible]
東京薬化学研究所

人格を高める

クラブのお化粧

其の表を[illegible]婦女式お化粧にして[illegible]のクラブのお化粧法に[illegible]其のお化粧の順序は[illegible]先づ【第一に】[illegible]石鹸よりも牛乳よりも遥かに有効な日本名物クラブ洗粉でよく顔を洗ひ、【第二に】[illegible]クラブ美身クリームを顔から頸にかけて薄く引き、[illegible]能く摺込んでから軽く拭取り、【第三に】[illegible]

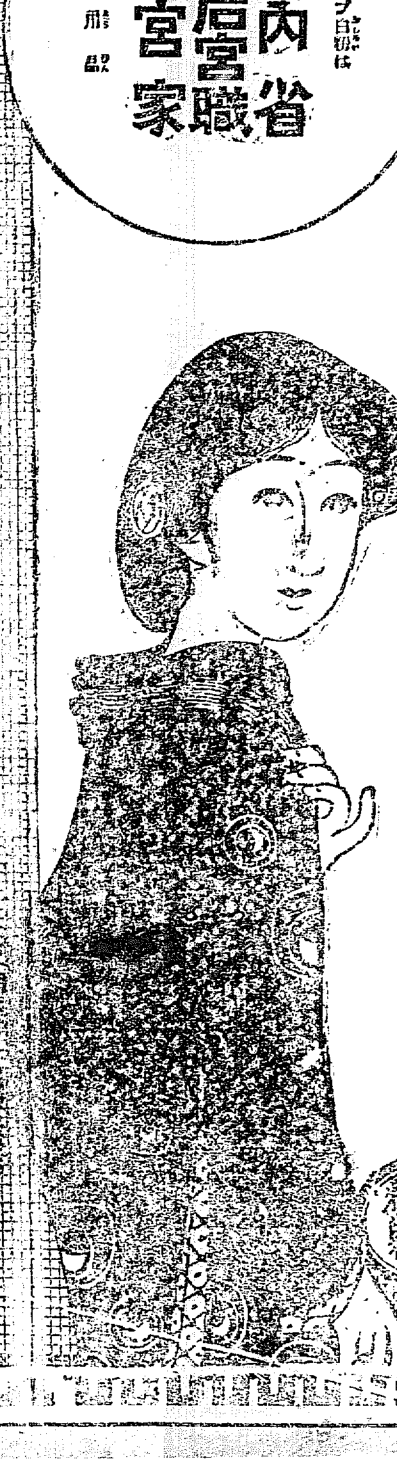
一番高尚で美しい艶の出る

クラブ白粉

[illegible]手に取つて、[illegible]よく溶つて付け（[illegible]は顔よりも少し濃くする事）、[illegible]で白粉を延ばし、[illegible]タオルで押へて白粉を落付かせ、【第四に】[illegible]にホンノリと[illegible]の色を添へるクラブ頬紅を、目の下から頬へかけて薄く刷き、【第五に】[illegible]クラブ白粉をセーム革につけて顔に薄く[illegible]ポンと[illegible]が出来上るのでございます。

クラブ白粉は
宮内省
皇后宮職
各宮家
御用品

お化粧の順序
クラブ洗粉
クラブクリーム
クラブ白粉
クラブ頬紅
クラブ香水



汽車時間表
京釜線（南行）（北行）　湖南線（南行）（北行）　京仁線　京元線（北行）
[illegible]

京城日報

第一五版

十六日朝刊
(朝夕刊併せて八頁)

本紙定價 △一部金二錢 △一ヶ月金五十錢 …
廣告料金 △五號活字一行 …
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社 電話 … 振替貯金口座京城三〇〇番

支那漫遊

蘇峰生

上海より杭州

十一月十七日午前七時半、杭州に向ふ。此日天氣晴る。然も幾もなく曙れ、旅行に取りて理想的好天氣也。予が前遊の際には、運河よりして杭州に赴けり。されば汽車の旅行は、頗る予をして愉快を加へしめたり。隨處稻田の中に、竹林あり、人家あり、而して大小の溝渠、運河は縱橫に通じ、實に人をして、如何に南支那に於て、水運の便が、利用せられつゝあるかを想はしむ。稻は已に收穫して、田畔に積み上げたるもの多く、然も未だ刈らざるもあり。宛も玉川附近の昨今に似たり。但だ目障りとなるものは、田と云はず、圃と云はず、隨處に墓あり、棺の露出するあるのみ。汽車の進行に從ひ、桑田漸次多きを加ふ。桑は灌木仕立にして、之を桑桑と云ふ。毎年新枝を刈り取る也。停車場毎に乘客雜沓す。江蘇、浙江の富、天下に冠たるもの、偶然にあらざる也。已にして山近く、翠松林中に、紅葉の多きを見る。詩あり、

平田一望半收禾。郷浦桑村次第過。勝景已知杭府近。翠松叢裡楓林多。

斯くて百三十哩の沃田、豐園の中、蕭颯、詩趣の際を過ぎ、十二時半に停車場に達し、鄕友瀨上領事の出迎に接し、十二年振に氏と舊歡を敍し、併せて湖山と舊歡を敍するを得たり。曾遊の際には、瀨上君は陸軍通譯として、北京にあり。聽け予が爲めに其勞を取られたり。今や君には美なる賢夫人と、五人の子供あり、近く擢任の上、長沙に赴かんとす。洵に善く變じたるものと云ふ可し。

君は予等一行を、領事館に留宿せしむ可く、用意したる旨を語られたれば、其の厚意を甘受し、直ちに之に赴けり。途中滿洲屋敷悉く一掃せられ、新市街と、大道との出で來りたるには、聊か驚きたり。是れ蓋し民國革命の餘澤と云ふ可き歟。

予曾て記して曰く『若し風流第一の領事館を求めば、予が知り得る限りにては、我が杭州の領事館に過ぐるものなかる可し。予は固より官吏たるを希はざるも、若しさる場合ありとせば、一箇月にても、此地の領事となりたしと思ふ也。特に領事たらざるも、食客として寄寓せば、更らに佳也』と。今や十二年後に於て、其の理想は實現せられ、領事館の食客たり。人事の如しとは、果して此事歟。知らず予は何等の善根ありて、此の艶福を享受するを得たる乎。

西湖舟遊

天氣は愈よ小春日和となれり。一刻も空過す可らざる也。乃ち午餐の後を捉し、領事館の下より小舟を艤し、西湖に遊ぶ。此日外套を要せず、舟遊尤も佳也。常時湖上の行宮に於て、天津水災義捐金募集の催し最中にて、湖中の舟織るが如く、水仙王も、林處士も、將た康熙、乾隆兩帝の靈も、定めて驚殺せられつゝあるならむ。予等も舟より上りて、蟻の如く群る男女を押し分け、漸く其の餘興場、展覽會、販賣店等を通り拔け、故行宮の最高所に上り、湖中の景の鳥瞰的觀察をなせり。而して其の傍なる文瀾閣を過ぎ、それより移したる四庫全書を、其の隣接地なる浙江圖書館にて一覧し、更らに湖心亭より三潭印月、退省庵等を瞻遊し、舟を廻らせば、夕陽已に雷峰塔の半面を射り、暝色漸く湖面を包み、湖上の微風漸く冷を覺えんとす。本來雷峰夕照と稱したるもの、康熙帝雷峰西照と改めたりと云ふ。何の故たるを知らざる也。雷峰塔は、五代の吳越王妃、黃氏の所建に係る磚塔にして、磚皆な赤色。而して其の頂上より半身迄、藤蘿、雜樹叢生し、遠方より望むも、其の古色の蒼然として、色彩の配合の妙なるを覺ゆ。況んや日光の反射して、山光水色と、相ひ映對するに於てをや。

雷峰塔上夕陽斜。籠水蒼烟淡似紗。風景依然吾老矣。白頭重宿湖邊家。

予は何ぞ記せんと欲する事多し。されど今や曉光湖面を照らし、予が寢室の硝窓に映じ、遊意勃然、予をして室内に蟄を取る能はざらしむ。

大正六年十一月十八日午前七時　寶石山下、白公隄邊、西湖々畔の日本帝國領事館の階上、湖に面し、湖を隔て、雷峯塔と相ひ對する室に於て

朝鮮古墳の變遷（十四）

八木奘三郎

歷代古墳の變遷（承前）

次に半島の先史民族論を述るは未だ[illegible]、古墳の年代關係及び漢人との接觸如何を考ふるに就ては大に必要なるより茲に其概略を一言す可し。古代朝鮮の地に入れる民族は彼の支那の諸冊上に見ゆる以外のものなりや、將た東夷傳中に載せたる種族中の一なりや、此疑問は容易く決す可からずと雖も、現存の遺跡遺物に就て觀察すれば其年代は餘りに古からず、故に支那の古書に記したる或者は何等か半島に關係ある可しと思はる。予は右に就て北方鐵道方面より入れるものは周代の所謂肅愼族の一派なる可しと云ひ、又南方より進みたるものは湖南湖北に住せし戎狄及び山東方面の淮夷、萊夷、鳥夷等の類にあらずやと云へり、蓋し予が右の推考を下せしは支那の古代に於ては南方に苗族あり、東北部には貊種住し、其北部には肅愼族棲據せり、而して漢族の東下と倶に第一に接觸す可きものは戎狄の類にて、彼等は漢族に服從して其奴僕となれるものもあらんが、大部分は他に遁れしに相違なし、而して常時南北に他民族の住する以上は假令無人の境ならざるも人口稀薄なる遼東方面より朝鮮の地に入れりと見ざる可からず、殊に支那の古代史を見るに、漢族は黄河を下ると共に南方富饒の地に進む可き筈なるに、却つて東北部に力を注ぎたるは願ふに先住民の反抗烈だしかりし爲め、其安定を圖らんと欲して此方面の統治を主とせしならん、又予は支那の古銅器及び古陶器等に見ゆる饕餮は漢族の所謂大食饕くなきものゝ誡めとして紋樣に施せしにはあらずして、彼の印度に於けるエリヤン族が其先住民のドラヴイデイヤンを鬼畜として賤みたるが如く、矢張り最初自己に抗敵せし先民族を惡むの餘り、之を器物面に顯はして輕侮の意を示し、又一方には彼等を閉狀視して自己戰勝の記念とせしものならんと信ず、是等は餘事に涉れども、實際當時の先住民は我國書に見ゆる熟蝦夷、荒蝦夷及び臺灣に於ける生蕃熟蕃の如く必ずや服從者と反抗者及び逃走者の二種類ありて、其生蕃的の部類に屬するものも、順を逐うて熟蕃の手を借り、又は漢族の居地に近きものが平和の間に多少彼等の文化を見て之を模し、之に化せしことは事實有り得可き次第にして、此結果は聽て墳墓模倣、器物模倣等の風を生ぜしなる可し、而して支那に於ける墳墓石槨等の起源發達は今日明かならざれども、大なる前例を居きたるは彼の吳王閤閭なりと云へり、此記事必ずしも信ず可からずと雖も、顧ふに陵墓の支那に盛んなりしは[illegible]て諸侯强大となり、又は其[illegible]せざる時代と覺しければ今より約二千七百年前後となる可し、去れば此時代の墳墓は最も世の注意を喚起せしなる可く、隨て鮮地方面及び之と連鎖を保つ民族は右を模倣せしならんか、其年代は予の三千年說と矛盾するが如しと雖も決して然らず、何となれば先住民の移動と墳墓の築造とは必ずしも同時に見る必要なく、先住民が四百年若くは四五百年の相違ありとするも敢て不可なければなり。以上述ぶるが如く、朝鮮の先史住民は支那の漢族に逐はれし形迹あると同時に、又彼と直接間接に相接觸し其結果として漢人墳墓の高大に進みし頃之を模倣せしものなる可し。

▲附言● 右記し終つて後古書を見るに、殷代東夷の反覆常ならず、又時に南進せしこともあり、去れば漢人と接觸せし蠻夷は早く金屬の具を用ひしならんも、其東北方なる奧地の民族は猶石器時代の境涯を脱せざるならん。

どうして

布施生譯

十五

其弟に當る人は又妙に法律家を毛嫌ひし其父に當る人即ち鋭氏の祖父樣ときては看嫌ひの狂人で通つてゐた、そこで當主になつて今度は女嫌ひと云ふ奴が出てきたのも不思議はない、處が永年氏の數友であつた人から聞くと鋭氏はあれでも一度は從姉妹の出繼孃には非常な血道を上げた事がある、しかし此戀は結局不幸に終つて鋭は鋭伯爵と云ふ堂上華族に嫁に往つて間もなく夫に死別れた、出繼未亡人は今は此地に歸つてきて何不足なく暮してゐるが鋭氏とは何だか間柄が疎々しくなつてゐると云ふ噂である。

國栖は其話を聞くと不圖先達て鋭氏の部屋で見た美人畫の事を憶出して色々と其容貌を聯想した、其結果あの肖像は噂の主に相違ないと見極めがついて[illegible]と云ふ事はなく手懸りに有附いたやうに思つた、そして多少得意になつて探偵長に報告すると探偵長は首を振つて御苦勞をしたがいかん／＼もつと深い詮議まで[illegible]と一議もなく言消して仕舞つた。こゝで國栖の方では[illegible]折角手懸りが無くなつて仕舞つた、所が[illegible]の廣告まで出したのにそれも一向手應なく國栖は大分落膽したが、折しも[illegible]いた鹿女から[illegible]に二三日[illegible]不思議な變動があると云ふ報知が手に入つた[illegible]國栖の興味は復又一時に燃上つた。

鹿女の話に據ると主人は此二三日と云ふもの宛然逆上の人のやうにわく／＼と家の中を彷徨歩き一刻も安靜して居られぬ樣子で、二階と階下とを用もないのに昇降し始終蒼白な顏をしてわな／＼身體を震はせ手先まで慄はせてお膳の上の[illegible]時々は把手に手をかけやうとする事もあるが[illegible]者には一向要領を得ないがどうも氣が觸れたのではあるまいか。

國栖はそれを聞いて、こりや適中絶望の餘り氣が觸れたのに相違ないと思つた、之で事件は又一つ紛糾つた、こんがらがるのは構はない、國栖は之る事件が段々平凡なものになつて仕舞ふのを恐れた、此處へ又鹿女から其晩武烈氏が慈善市に往くので自動車の用意を命じたと云ふ報知が届いたので國栖は早速氏を尾行して、どんな理由があつてあの出嫌ひの人が奇體にも慈善市なんかに出かけるのか、出來る事ならそれを一つ探つてみやうと思ひ付いた。

娯樂世界新年號

名人大家 十八番ぞろひ

□寫眞のお若 猫遊軒伯知
□治郎左衛門 八つ橋 小金井芦州
◎演藝園[illegible]話 ◎初風呂物語 ◎力士七福神 ◎密航婦の話 ◎放火問答
◎物凄い馬の亡靈 ◎映畫貼交帖 ◎奇馬怪馬譚 ◎當世五人女 ◎寒夜の街行
□呪の力（長篇小說） 江見水蔭
□暮ころ（落語） 柳家小さん
慶安太平記 早足怪僧 桃川如燕
義士外傳 小山田變心 一龍齋貞山
佃島（落語） 三遊亭小圓朝
因果小僧 六之助 悟道軒圓玉
出世の鼬坂 寶井馬琴
清正（落語） 三升亭小勝
五ヶ條[illegible] 錦城齋典山
寫眞小說 春の魁 紫雲霞作
□三家三勇士
◎大正置炬燵 ◎叶ケ京仇討 ◎長唄內所話 ◎女優辛味餅 ◎押資慈善乞喰
◎市ケ谷狸塚由來 ◎喧嘩雨成敗 ◎吉原の若湯觸れ ◎寫眞觀相 ◎讀者倶樂部
□戀の次郎長 神田伯山
□特別大懸賞募集（十四勤家賃券 銘仙反物、萬年筆等十數人）
本號に限り 定價金卅八錢 郵稅二錢五厘
東京日本橋 娯樂世界社 振替東京三八四四番 電話本局ノ二六二番

謹告

例年の通季節物冬種弊店獨特の仕入品取揃居候間何卒澤山御注文願上候
本年は何方も非常の好景氣に付品切れに成さる內に御仕入の程奉願上候

食料品問屋
味の素朝鮮代理店
京城南大門市場
辻本商店
電話七五番六四一番振替京城三八番

少女畫報 新年號

口繪 △元日の朝……（河鍋蘭香） △新春スケート……（[illegible]）
寫眞畫報 ▲飾り松……▲海鳥の群 ▲久邇宮王女殿下 ▲各姫宮殿下の御寫眞 ▲お正月の遊び……▲遊戯と體操 ▲馬のおもちや…… ▲京都各女學校の光景…… ▲編輯局員のおめでたう…… ▲運動會のいろ／＼……
寫眞小說 ▲水の流れ（無實の罪を被りし少女の清き心を描ける近來の大傑作）
◎新年おめでたう……編輯顧問 高島平三郎
◎珍らしい松……理學博士 伊藤篤太郎
□少女小說 蝶子の父……上司小劍
□歷史小說 白菊……渡邊霞亭
□少女の花 紅梅白梅……吉屋信子
□少女家庭小說 母なき家庭……美津子
□女學校評判記 □各女學校の徽章 □英文新年物語 □無線電信の話 □少女家事お客膳 □少女タイムス
新年大附錄 初夢双六 少女畫報編輯局案 木原青起畫
○寮中で迎へた正月……和田古江 ○記者の失敗記……石塚月亭 ○少女歌かるた……太田水穂 ○少女俳話……荻原井泉水
○お雜煮物語……各記者 ○お國新話……小峽 ○新役の羽子板……新水 ○母なき家庭……美津子
□長篇少女小說 遺言狀（十四頁）……安中花子
本號に限り 定價二十錢 郵稅二錢
婦人畫報 婦人界 少女畫報 日本幼年 發行所 東京京橋 東京社

歲末・歲始の御贈答品には？
是非三中井の
呉服券
幾回にも御使用出來候のみならず各支店共通の御便利御座候
弊店所在地の御方樣へ御贈り被遊候際は最寄の店へ御申越被下度早速當店より御届け可申上候
三中井呉服店
所在地 京城電話三七番 釜山電話七五番 大邱電話一二番 元山電話二七番 晉州電話一五番

過激派梁跳益甚し
民主黨有力者逮捕

過激派は引續き跋扈跳梁を極め憲法制定議會にては反對を許さず並に立憲民主黨の有力者を逮捕し或は不當なる選者として之を扱ひ同時に過激派政府は土地其他の財產の分配を約束して絶えず人民の貪婪心に訴へ其心を得るに努め居れり（露都電報）

資本家壓迫さる

過激派各委員は中產階級を倒せとの語を以て結べる宣言書を發表せり其の宣言書中には地主資本家階級に憲法會議の議席を與ふ可からずと云ひ又立憲民主黨員の內には捕縛されしもの有りと述べ居れり（露都電報）

憲法議會休會か

露都市長は宣言して曰く憲法制定議會はダウリード宮にて開催されたり立憲民主黨は目下監禁中なる前外相テレスチエンコ氏及び前大臣連に憲法及び社會革命黨は少數列席せるのみなるが議會は定數に達する迄休會する旨の人民への宣言案を可決せり（露都電報）

前大臣反對宣言

目下ペトログラードに在る前大臣連は議會長に宛て過激派の政權橫領に反對なる宣言を發したり（露都電報）

休戰條約特き直に

獨逸公報に依れば和任…休戰條約に代る可き他の休戰條約に對する談判はレオポルト親王の本營にて十二月十三日より開始さるゝ筈なり（倫敦電報）

メレッテ墺軍戰利

墺太利軍はメレッテ地方の四日間の戰鬪にて將校六百三十九、兵卒一萬六千名を捕虜とし且つ大砲二百九十三、機關砲二百三十三、操車砲四其他を鹵獲せり（倫敦電報）

葡國新內閣組織

十四日葡萄牙新內閣組織されたりパコス氏は首相の任に就き同時に外相內相陸相を兼ね議員パボーザ氏は植民大臣に任ぜられたり（里斯本電報）

出兵說の出所
米國和擄風の魂膽

日本兵が浦鹽に上陸せりとの外電は紐育の投機業者が爲めにせんとて流布せるものにて事實無根なる旨外務當局は明言せり（東京特電）

吉村代議士失格

滋賀縣選出代議士吉村鐵之助氏は十五日大阪控訴院にて當選無效の判決を受けたり（大阪特電）

日支電話接續

四平街と奉化縣支那側設電話接續交涉中の處十三日調印を了し二十一日より開通奉天長春と支那側梨樹縣、郭家屯、榆樹外十箇所と通話開始さる可し（大連特電）

加藤管理局長

府鐵管理局長は加藤滿鐵東…夜發開原四平街長春范家屯奉天安東縣本溪湖撫順を巡視し二十八日頃歸任の筈（大連特電）

枝光製鐵次長一行

服部枝光製鐵所次長及び木戶地質學研究所長一行は十四日夜鞍山店製鐵所より來奉十五日朝安奉線にて本溪湖に向ひ出發せり次長は十六日發二浦に向ひ同地より直ちに內地へ向ふ可き豫定にして今回は門司より山東省の鐵山及び滿洲朝鮮の製鐵所を視察し約四週間の日程を了せりと（奉天特電）

大田鮮銀理事

大田朝鮮銀行理事は十五日午前十時來安關係各方面の者と會見し金建統一其他の件及び正金引揚後鮮銀としての方針等に就き說明し午後五時より銀行業者及び官吏主催の歡迎會に臨み同八時半發列車にて奉天に

▲十一月奉天金融 …內地組織…廻りと相俟つて…行を見た…況を呈せり…輸出品として…して四十二片臺に落ち其に於ては殆んど…特殊の狀況にして…せしもの…るに…[illegible]

（向け出發せり（安東縣特電））

鮮銀大連支店長

橋本鮮銀大連支店長は十六日旅順に赴き正金出張所長平田常太郎氏と局事務引受打合せを爲し近日歸任の筈（大連特電）

鮮銀奉天支店長

鮮銀奉天支店長小西春雄氏は去る十二日來鄭家屯に赴き同地正金銀行出張所事務引繼を終りて引返し十四日更に遼陽に赴き同地正金銀行の事務を受けたる上十五日夜歸奉す（奉天特電）

土地查定の終了（下）
臨時土地調查局事業の進捗
和田土地調查局總務課長談

▲紛爭地　土地調查に際して所有權の紛爭に關つたのは市街地の分約二千件の外に郡部で三萬二千餘件に達し其の總數十萬餘に上つたのである、是等の紛爭地に付ては最も愼重なる審理を爲し積極的に種々の調查をしたのであるが、朝鮮に於ける紛爭地には多くは複雜なる沿革や慣習に基いて居るものが多くて隨分困難を極めた次第で唯一件の記錄で數十冊の紙數に上つたものも尠くない、外には紛爭地審查委員會を設けて、日夜之が審理を進め僅々四年許りにして數萬の事件を處理したのである、紛爭地の一番少なかつたのは咸鏡北道の八十九件で京畿道の約九千餘件は最多の數になつて居る、紛爭地は概して市街地に多く郡部では南鮮地方に多くして北鮮地方には少い、今一寸南北を比較して見るに、假に咸北を一とすると平南は二、慶北は十二、全南は九十六、慶南は四十五と云ふ樣な比例になる、京畿道は著しく增加して百以上を示して居るが之は都近い關係から殊に古來紛地が多かつたのである。

▲洞里の廢合　朝鮮の洞里は既に色々の機會で述べたこともある通り其の名稱も區域も實に不判明を極め住民の自然的集團の關係やら徵稅の關係などから設けられたと云つて居るに過ぎぬから、區域の大小、地位の便不便等も樣々である、故に土地表示の決定は先づ洞里の整理を調查することゝし更に地方廳と協議して其の廢合を行ひ、經て其の他諸般の關係を繹ねて名稱を定むることゝ爲り、其の結果全土を通じて從來六萬二千餘の洞里があつたのを二萬八千許りと爲し三萬四千餘の減少を見たのである。

▲查定圖簿　所有權查定の根基と爲つたものは地籍圖及び土地調查簿であるが、其の總數を擧げると、地籍圖は八十萬七千餘枚、土地調查簿は三萬冊に近いのである、是等の帳簿は異動地整理後、土地調查簿は地稅名寄帳等と共に本年の六月頃最も近き地方廳に引繼がるゝ事になるので朝鮮全土に亘る土地登記も亦やがて一同に實行せらるゝ事になるのである。

大連大滯貨

大連の埠頭滯貨は增加一方にして十五日は豆十二萬噸、豆粕五萬五千噸、雜穀七萬噸の外入荷六萬噸を算し近來の大滯貨を示せり豆粕の增加は米價騰貴に連れ內地輸出旺盛となれるに依る（大連特電）

開原取引所活況

開原取引所に於ける大豆先物取引は大連の相場の低落に連れ邦人商の大買玉現はれ活氣を呈し居れるが昨今一日の出來高四百貨車乃至六百貨車に達せり（開原特電）

日滿連絡電話問題と遞信局
某遞信當局談

近時日滿連絡の電話架設を關東都督府遞信管理局にて計畫立案するも

▲府朝鮮總督　遞信局が不可能なる込みをなすため其の說大連方面に出でつゝある右に付遞信局の有る當局者は日滿連絡電話線の必要を認むる事は敢て關東州當局に劣らざる積りなるも其の急設希望に對し直ちに應じ難き事情はより以上に急を要する電話線の架設鮮內に全く豫算關係なり現に京城安東間の電話直通をなさんとするにも朝鮮にては平壤新義州間の電話線架設の必要あり（京城平壤間は既に電話線あり）其の經費約

▲五萬六千圓を要するが關東州にては僅々安東より奉天へ電話直通とせば關東都督府にて弱の架設をなせば事濟み然も電話收入は折半となる更に京城奉天間七十里の電話線架設にて關東州京城間百三十三里殆んど二倍の里程に電線を要す然も收入は大體に於て相均しむ尤もこの一の數字を以て示したるものにて吾等は都督府の…

▲總督府が收入支出均衡せざるに日滿電話を急がずとは主張せず唯朝鮮には通信上の必要より奉天京城若くば奉天安東…

▲直通電話線　以上に必要なる電話線あり乃ち管內に於て重要なる電話新線の架設を捨て比較的必要の度少なき對滿直通電話に着手する事は面目からず其の一例として急設の希望元山方面より元山に出づる京元電話線を擧げ元山と各主要地間の電報通數と奉天安東と朝鮮主要地間の電報を比較するに左の如し（二日平均）

▲元山對朝鮮主要地▽　元山、京城…

▲安東對朝鮮主要地▽　安東、京城…

▲奉天對朝鮮主要地▽　奉天、京城…

乃ち元山と朝鮮主要地間の電報は四十七通に比し安東と主要地間は五十七通奉天と主要地間は二十八通にして比にならず

▲安東奉天を…あれば滿洲方面の接續より稱する…少なし之れ遞信局に電話線架設を先とするの必要あり所以なり又京元間の電話架設費四萬七千圓に過ぎず安東に接續せんため平壤より新義州に架設の費用より約一萬圓方…

鐵嶺鮮銀開始
一般に歡迎す

（奉天特電）朝鮮銀行にては今回鐵嶺出張所開設され十三日鈴木支店次席杉之原氏所長として著任し諸般の準備完成せる爲め愈十六日より銀行業務を開始せり尤も開店以也

哈爾賓へ大兵派遣
飼中將孟督軍等協議す

（奉天特電）參謀本部より宗達中將十五日朝長春に來著したるが更に午後一時吉林より孟督軍臨時列車にて來り共に要塞守使衙門に會し哈爾賓に大々的軍隊派遣の協議を遂げつゝあり孰れ此の上奉天、吉林、黑龍江の三省より大部隊の支那兵を哈爾賓に派遣する事となる可き形勢にあり十四日より十五日に亘り既に一千名の軍隊を哈爾賓に送れり何れも軍の來るは外交團の要求には別問題なる可く支那自身の自發に依り哈爾賓を治めんとするものならんと觀測せらる（長春特電）

南北調停協議か

陸軍中將何宗蓮及び大總統副官陸軍中將哈紹田氏は十五日朝來奉、奉天督軍張作霖氏と會見せるが馮總統の內意を受け多分南北調停に關する重大問題に就き協議せるもの如し（奉天特電）

▲小洋相場　鐵嶺有の如くなりし…地方官…は之れによりて受け…

南支警備戰隊編成
山岡司令官新補二十日拔錨

（東京特電）海軍は南支一帶の警備に當るものにし新たに第七戰隊を編成し山岡豐一氏は十五日附第七戰隊司令官に補せられたるが第七戰隊は上海に派し支那に江筋の警備に當らしむるものにして山岡司令官は旗艦千代田に搭乗二十日漢口に向ふべしと

鐵道荷動狀況

滿鐵京城管理局線に於ける十一月中の荷動を聞くに發送噸數十九萬八千噸にして之を前年同月の七千三百四十三噸に比すれば五十二萬…增加を示せり

一月以降なるも正金鐵行は開原出張所引揚に先ち一切の貸出を停止せる爲め同地商人の不便甚だしきに就き特に鮮銀に之に代りたるものなる由にて同地には正金引揚と共に一部の間輸入商は資金問題沸騰したるも側の資金問題及び取扱ひにて一般的の發展を促すもの、如し

▲前月中には新規に出廻りて…同月に比し…增加…なる…

▲人事消息

菅田勇氏（府鐵道局長）十五日夜入京…
南坂發三氏（水原勸業模範場技師）十六日…

獨逸の戰費に…

□□□ 一龍百種 □□□

獨逸の戰費は…至る迄に約六百億圓を支出して居るが▲其の約三百六十億は公債に依つて居る▲發行せる紙幣に依るも…紙幣が下落して丁抹通貨…

（以下欄外雜記）

新年號出づ

表紙のウラを御覽なさい（福袋の中に何がありますか）

（大附錄）初日出參拜競爭雙六

幼年の友

一冊三十錢稅一錢

東京市京橋區南紺屋町　實業之日本社

コレダ買ハフ　年末年始用ノ酒ハコレデナクテハ

灘酒　明ノ星　※澤之鶴

特約店　京城本町一丁目　佐藤牧商店　電話二九二四八番

山漢江通　佐藤牧支店　電話四二九番

中間報告

勸業債券　新分　第六拾七回一等六千圓當籤の二通組賣　あり値段至急御照會

▼六拾七回當籤債券價格拾圓三拾五錢
▼當籤即時受拂▲債券送料拾錢要
▼一月一日…
▼勸業大阪支店…

大阪市西區土佐堀…　和田合名會社　電話土佐堀三九五番　振替大阪一八二番

新分　六拾七回一等四千圓當籤の一通組賣あり

縮刷　ファウスト　ギヨウテ氏原作　森鷗外博士譯

金玉の名篇縮刷新に光輝を增す

縮刷　大奧の女中　池田晃淵先生著　三葉挿畫色彩版

東京神田　富山房　振替（五〇一）

本場みかん賣出し　ネーブル梨、多數あり　ハッキミカン

□御進物御贈答には紀州本場みかんに限る

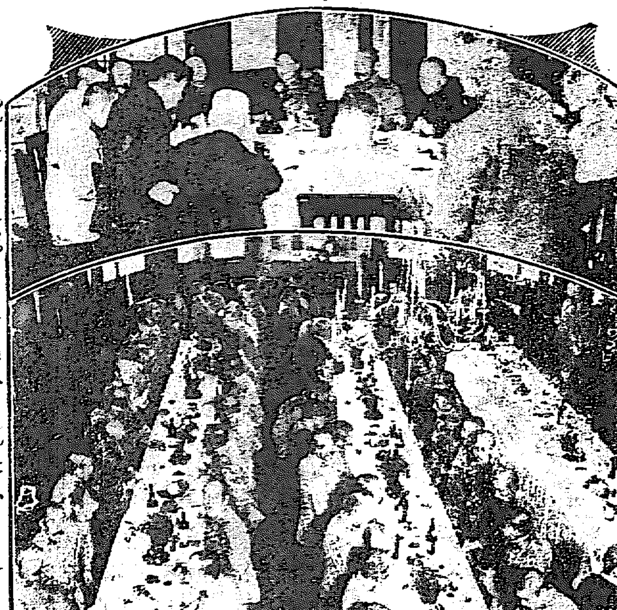
岩城馨商會　電話八四二番　振替京城一〇〇六番

新田帶革　朝鮮總代理店　京城本町四丁目　白神洋行

購買　陸軍倉庫　山…

商業登記公告

◆軍司令官邸の披露宴


(上)正面の軍服姿は松川中將その右は [illegible]

大豆の [illegible] 三品三百圓の開市を見ましたる [illegible] 程なりしかば當地輸入市場に於て [illegible] 奥地特産物の出 [illegible] 末四十三片迄 [illegible] 一時持直し [illegible] 四十片迄 [illegible] 十三片迄となり中旬よりは [illegible] 出特許の出 [illegible] に之れが許可せらる [illegible] 一般市場の [illegible]

歡喜に輝く司令官邸 ―旅團移駐の披露宴―

◆松川將軍、金久保少將夫人が ◆卓子を廻つて接待に努める

最近大邱から龍山に移動した歩兵第四十旅團司令部、大田から同じく龍山に移つて來た歩兵第七十九聯隊の披露のため松川軍司令官は十五日午後四時より龍山の

◆司令官邸 で披露の宴を張つた、定刻前招待を受けた大官、軍人並に紳士は自動車馬車人車若くは徒歩で續々官邸に集つて來る、竹内高級副官千輪野津兩副官の諸氏が來賓の接待を忙しくやつてゐた、定刻

◆大食堂を開く や松川中將は第四十旅團長の金久保少將第七十九聯隊長の富塚大佐を隨へ『今回北兵第四十旅團の集結を終り旅團司令部並に歩兵第七十九聯隊が龍山に移駐しましたのに付御紹介旁々聊さか御披露の意味を以て閣下並に各位を御招待申し上げました所歳晩殊に

◆寒氣嚴烈な 折柄斯く多數の御來會を得せしは本官の光榮とする所であり升』とて金久保少將富塚大佐を紹介し今後公私共御懇親を希望する旨の鄭重な挨拶あり右に對し山縣政務總監は簡單に御親交を望むとの謝辭を述べ

◆立食の宴に 移つたが松川中將、金久保少將、富塚大佐は交々各卓子を廻つて來賓の健康を祝して乾盃し各所にては又歡談笑語湧く如く起り午後五時四十分頃散會した尚ほ出席者の

◆主な人々は 山縣政務總監宇佐美松永持地鈴木各長官國分次官芳賀院長外在京勅任官金谷府尹遠藤秘書官民間側より美濃部鮮銀總裁三島同理事川上東拓理事高野三井支店長外二三の實業家各新聞通信代表者

◆軍人側では 市川金久保各少將以下軍司令部幕僚在京上長官以上並に第七十八聯隊の大尉以上約百五十名で八割内外は武官であつた

伊勢艦引渡 艦旗掲揚式擧行

軍艦伊勢は十五日川崎造船所より軍當局に引渡され同艦に於て秋山大佐以下千三百名は軍艦旗掲揚式を擧行せるが十七日呉に回航す(大阪電)

浦塩人夫の同盟罷業 尚終熄せず

浦鹽棧橋人夫の同盟罷業は其後終熄に向ひつゝあるも尚全く終熄を見るには至らず十六日出港の對馬丸は二十六日頃に延期するの已む無きに至り十五日入港の津山丸も年内には出帆する事能はざるべし(浦鹽斯德電報)

遺書に五十圓添えて 「怪しい女」縊死

十五日午後三時釜山大廳町高野山の裏山にて縊死を遂げ居れる婦人のあるを鮮人が發見し急報に依り坂の下交番より係官現狀に就き檢死を遂げたるに死後既に七日を經過し居れり此の者は豫て本紙七日夕刊に『怪しい女』と題して掲載せし自稱東京府下大塚百〇六番地原田花子(三二)なる事判明したるが持品無く遺書には

我死骸は僧侶に渡し埋葬料として五十圓を同向料として五十圓を同封しあれば渡されたし

と記し右五十圓の外猶八圓五十錢あるのみ、屍體は自稱本籍地に照會中なれば取敢へず府廳に於て假埋葬に附したり、筆蹟等は相當なるものにて學歴もあるらしく十八歳以上の美人なり(釜山特電)

千葉局全燒 損害十數萬圓

千葉郵便局は十五日午前五時半全燒せり兵士五百名出動消防に盡力したり損害十數萬圓(東京電報)

氣温降る 零下十二度七分

十五日の最低氣温は

十四日夜來氣温頓に低下し十五日午前中の最低氣温は零下十二度七分を示し之を昨年の零下三度四分に比すれば約九度低下し又平年の氣温七度一分なりしに比すれば五度の低下を示せり尚本年朝鮮各地の初氷を昨年と比較すると左の如くである

地名	本年初氷	昨年比較
京城	十一月三十日	(晩)二日
仁川	十一月四日	(早)七日
水原	十一月三十日	(晩)四日
議政府	十一月二十日	(早)廿二日
清州	十一月廿一日	(早)十一日
群山	十一月五日	(早)四日
陝川	十一月三十日	(早)廿九日
密陽	十一月廿一日	(早)廿八日
順天	十一月五日	(早)廿三日

此の外前年より早きこと廿餘日に及べる地方は外に釜山、大邱、馬山、善山、居昌、山淸、蔚珍、江陵、淮陽等、又た晩かりし地方は楚山の二十八日晩かりしを筆頭に永柔(晩きこと廿一日)慈城、咸興(晩きこと十三日)元山(同八日)城津(同四日)等である

四人に重輕傷を負はす

熊本縣阿蘇郡長陽村生れ當時金北面里榮町居住銀治工小城竹夫(三三)は去る八日午後十二時頃泥醉して附近の床屋に闖入し鋭利なる西洋剃刀を以て誰彼の差別なく斬りつけ居合せたる床屋夫妻に輕傷を負はせ之れを取押へんとしたる機關庫の火夫小野慶藏(三〇)の右腕に重傷を負はせて狂奔し次いで通行中なる大工大岡幹太郎の前額部に斬りつけたる騒ぎに憲兵驅けつけて竹夫を逮捕し取調べの上檢事局へ送らる

井戸へ突落す

慶北義城郡多仁面内陵洞丁水泉(一三)の妻崔萬汝(一七)は四年前婚姻し同棲せしも當時丁水泉は少年のこととて萬汝は昨年十二月七日州郡中東面柱筧洞の實家に歸省し慶道(三三)と關係して夫婦約束をなし其の結果丁泉を殺害して慶道に轉嫁せんと十二月一日午後十一時頃丁泉を屋外に誘ひ出し井戸に突き込みたるも尚死に至らざるより [illegible] を以て亂打し居る所を隣家の妻に發見されて遂に目的を遂げざりしが萬汝は此の程義城署の手に逮捕されたり

夫の弟を殺さんとす

京畿道坡州郡州内面延豐里李俊成妻金千蘭(三)は去る十月中程 [illegible] 種麥を他人に賣却して消費したることを夫に探知され嚴重に詰責されしより是れは夫の實弟なる [illegible](九)が密告したるものならんと疑ひ十一月七日未明必死を絞殺せんとして果さざりしことを京城鍾路署に於て探知し千蘭を引致取調べの上檢事局へ送れり

密漁船を捕ふ

去る十一日午前十時半頃釜山牧の島洲岬より怪しき漁船一隻の帆したりとの急報に接したる牧の島派出所の警官は必定不正漁船に相違なしと洲岬秘密監視所の小船にて追跡せんとしたるにそれと知りてか怪しき漁船は帆を上げて五島神岩して疾走し始めたれば警官の一行は上陸し本署に電話し [illegible] にて追跡し遂に東山洞神合にて追ひ付き船中を臨檢したるにダイナマイト十本雷管多數發見したるより有無を云はさず船諸共に引戻し本署にて乘組員五名を取調べ中なるが漁夫は慶尚南道李文伯晋州郡 [illegible] 外三名にてダイナマイトの出所に就ては只だ氏名不詳の日人より買取りたりとのみにて自白せず引續き出所につき嚴探中なり

妻を殴り殺す

咸北富寧郡下茂山面白岩洞常民 [illegible] は去る十一月九日正午頃内房に於て妻元授金と二十錢の事より [illegible] 妻の頬を三回平手で殴打し互に打ち解けず夕食を終り妻は夜 [illegible] 隣家池 [illegible] 方に遊びに [illegible] 更に [illegible] 絞首し [illegible] 殺害せるが犯跡を隱さんが爲め [illegible] 死體を夜陰に乘じ [illegible] 同家西北約六丁の小河に遺棄し [illegible]

年賀郵便 十五日から受付を始めた

タチアナ姫滿洲を騒がす 噂の主はミス、グレーと云ふ婦人

十四日朝長春より來奉せる [illegible] 北京方面へ向ひたる四名の露西亞人中露國廢帝の第二皇女タチアナ姫あり [illegible] との風説ありて大騒ぎを惹起せしも右は根據無き説にて [illegible] 婦人を許して取沙汰せるものと判明し [illegible] グレーと稱する婦人の [illegible] 露國食糧大臣パスヽーロック氏 [illegible] を打消し居れり(奉天特電)

贈答品は 優美なる 漢陽高麗燒種々

大好評の明太魚カラスミ
三本入 八拾五錢
五本入 一圓拾五錢
七本入
十本入

進物用化粧入
京城本町一丁目 海市商會

◆福壽草を正月に 何して咲かせるか

福壽草は福神草、元日草、長春菊などゝ云つて、お正月に因んだ ◎目出度い名前 を持つて居る位ですから、我國の人々はお正月の花と云へば、すぐに福壽草を思ひ出します、此福壽草が自然に咲くのはお正月ではなく [illegible] ですから、お盆にして置いたのでは正月の贈答品や、飾物にはなりません。で、お正月に咲かせるには、相當の手入をしなくてはなりません

◎梅の鉢 に植込みになつてゐたものあつたものを [illegible] 福壽草だけ植ゑて [illegible]

◎時期は 二月頃 [illegible]

◎水苔で [illegible]

◎箱の上面には まして消きます、そしてその上に新聞紙を掩ひ [illegible]

◎箱子をかぶせて、日中は出來るだけ蒸暑くし、夜間は温を何枚もかぶせて暖氣を保たせます、この様な方法をすれば自分が思ふ通りの開花までの [illegible]

◎日數は 温度によつて、 [illegible] 見て宜しいでせう。

◎加減をして 花期際になつて、温度や濕度の加減をして、かなり開花期を左右する事が出來るものです

◎青苔を 敷き [illegible] (東京花通信)

[illegible] 來膳があつて仲々の盛餐だつた [illegible]

社告
當月の支拂は左の通り相定め申候也
十二月二十五日
午前十時より午後四時まで
但前記期日に御請求なき時は翌月に繰延べ可申候
京城日報社

急告
當店の名儀を詐稱して粗惡の [illegible] 地方に行商する者有之候間御注意 [illegible]
京城旭町

最新刊
日本神祇史 [illegible]
藤栗毛輪講 [illegible]

大阪屋號書店

胃の治療 [illegible] 二五九五番

京日案内
看護婦 京城旭町一丁目 島崎病院
勸業債券買入 光國會社
古自轉車賣却 京城日報社營業局
讓店 姓名在社
恩給年金立替 國江商會
はねつき 柔術道場
開通 參○貳○番 コドモヤ洋裝店

帝國最新藥 日本醫藥研究所
東京神田 佐柄木町

お正月のおはきものは 井上に御用命願います
御進物用には格安物種々取揃へ居ります
京城本町二丁目 電話一三七番 井上履物店

大奇魔術傳授書 國奇術研究會

有價證券現物問屋開設
京城水標町二丁目 丸五商會 有田長

金銀賣買店
京城府鍾路通二丁目九十番地(青年會越便)
主 李種大

優等清酒 賀茂鶴
廣島縣西條町 釀造元 木村静彦
京城府鍾路(中央) 發賣元 河野酒店

防寒靴の時季來れり!!
見落す勿れ!!
大阪屋製の防寒靴は、何故賣行がよい?
品がよくて丈夫で暖かくておまけに直段が安いからです
定價は壹圓六拾五錢以上貳圓七十五錢迄
京城府黄金町三丁目 大阪屋

内科外科小兒科 本田醫院
京城肛門病痔疾療院

櫻御殿

大阪 霞の家主人

第九十七回 孿生男子（十一）

『もし、あなた、只今こんなお手紙が參りました、御一覽遊ばしませ』

お幾は一封の手紙を出した、助左衛門は手に取つて見ると、表に『大矢田與藤』として、差出人の名が書いてない

『はて、何處から參つた？』

『夫が分りません、立派なお狀箱に入つて參りましたのを、執次が受け取りまして、わたしくの許へ持參致しましたゆゑ、何れから參つたのかと存じ、お眼前からお手紙を取り出して拜見致しますと、此の通りお名がございませんので不審に存じて、お使の方へお訊ね致さうと思ひまして、姿を見せに遣はしましたところ、何日の間にか、何處へ參りましたのか、廣敷にも玄關にも姿が見えないのでございます』

『珍しい手紙ぢや、兎も角も一見せう』

助左衛門は封を開いて讀むと、

『卒爾ながらあまりのお不憫さにちよつとお知らせ申し上げまいらせ候、わらは子細あつて、お筆の在所を存じ居り候ゆゑ、内々お知らせ申し上げまいらせ候、お筆は五日市村の百姓石六と申す者の娘にて、兄を宗藏と申し候、匆々五日市村を御訪ね遊ばさば、旦那様の御意地もきつと相立ち候事と存じ候まゝ、とり急ぎあら／＼かしこ』と簡短に記してある。助左衛門は不審の中に歡びの眉を開いて

『世には心切なお方もあるものぢや、これに由つてお筆の在所が知れた、五日市村はつい其處、遠方を尋ねるには及ばない、今より踏み込み、神輿の首を得て參ろう』と勇み云ふ

『これ／＼』と作右衛門も手に取つて『女の筆蹟とは見ゆる、紛れ無く心當りないか』

『一向ございません』

『さらば汝は？』とお幾を見る

お幾も不審しく手に取つたが、一字々々に氣を止めて見て

『わたくしにも覺えございませぬ』

『すると、見ず知らぬ他人と覺えた、何れにしてもお身の爲めには弓矢神ぢや、猶豫しては此の手紙の心切が反古にならう、早や行け』と作右衛門は急き立てる

『仰せまでもございませぬ、今度こそは好い土產を得て來まする』

『尾頭買ふてお待ち申します、時に後れてはなりませぬ、早うお越し遊ばしませ』

お幾までが急き立てる、助左衛門はいきり立つて、兩刀ぶつ込み勢ひ好く立ち出づる

『わたくしもお伴れ下さりませ』

『わたくしもお供致しまする』

若黨仲間それと聞いて供を願ひ出る、されど多人數を引き伴れては、却て敵に用心をさせるに當る、皆が留守せよ、入助だけ伴れて參る、と云ひ開け、入助にのみ供を許して、廣島の城下を逍散に西へ驅けた

五日市村には鎮守の森の茂つたのが目に立つ。入助は遠くから見て

『御覽なさりませ、彼に森が見ゑます、あの森の下の一村がそれでございます、最も廣くはない土地、お筆の目へ觸れるやうな事があつてはなりませぬ、あなたはこれでお待ちなされませ、わたくしが驅け參つて、それとも無く樣子を聞いて參ります』と如才無い事を云つた

『さらば樣子を見て參れ、石六、宗藏といふ兄もある筈ぢや』

助左衛門は街道の茶店に腰をかける、入助は五日市村へ入る、亭主は番茶を侑める。日はとつぷり暮れて、人の面が定かに見わかぬ程となつた

『亭主に尋ねる、此處が五日市村と申すのぢや喃』

『へい、左樣でございます』

『此の村に百姓石六と云ふが住んで居るか』

『へい、ございます、評判の正直者、旦那樣御存じでございますか』

日曜俳壇

○消誠會詠草（海州）

鶏頭花

鶏頭の實を啄める雀かな　草兒
鶏頭を鉢に植ゑたる小店哉　同
雨晴れて鶏頭輝く夕陽哉　同
鶏の子を猫掠め去る鶏頭哉　迷天
荷を負ふて驢尾が來る鶏頭の家　同
且呑むミルクが甘き鶏頭哉　裸骨
四山晴れて鶏頭明るき庵哉　同
初顔の憂枯れ殘る鶏頭哉　廣葉
兒等が顔ふ度に種落す鶏頭哉　同
物寶の荷を觸れ過ぎる鶏頭哉　都次郎
無雜作に鶏頭扱かれ庭の隅　一波
爪研げる猫や夕陽に鶏頭　不二郎
塔の影庇裏の鶏頭に流れ居り　二葉
深呼吸の爽かなる鶏頭哉　鷺城
聲かけて巷客入り來る鶏頭哉　靜一
草鞋作る驛の小店や鶏頭花　森々
鶏頭に秋を食める簿かな　骨堂

鶏頭に草紙干しある野寺哉　同
庭延して締繰れる鶏頭哉　小葉
鶏頭や昔ながらの寺の門　同
染鶏頭や糸雨鮮かな戻壺哉　同

◎糸の雪拂つて　公州山城吟社例會

冬山に閉ばれ灯る港哉　友葦
障子灯りて話聲かさや池の雪　同
琴糸の切れたる庵の寒さ哉　同
雪の町河に對ひて灯りけり　同
十月の島に遊べる鶏哉　同
餠に雖けて又出る犬や枇杷の花　同
茶の〃や寄冠にして客の主　空堂
冬の夜や忽然として飛行船　同
冬の夜の闇深く灯る二階哉　同
糸巻の膝辺り落つ時雨哉　未刀
霜月に聴聞潮の響かな　孤秋

□冬三句　虎耳

入諸能く解す大なり吹雪道
鐵山煙り音をも強し雪の日を
移川は雪に埋れて惑く牛

新刊紹介

△佛教美術概論（小野玄妙著）

△蛇酒（上山草人著）

△日日より（千葉春子著）

△新公論（三二の一二）

△雜誌「創作」（第五編第十號）

△電氣化學（二の一二）

△中央佛教（二の四）

△育兒通信（一二）

圍碁手合

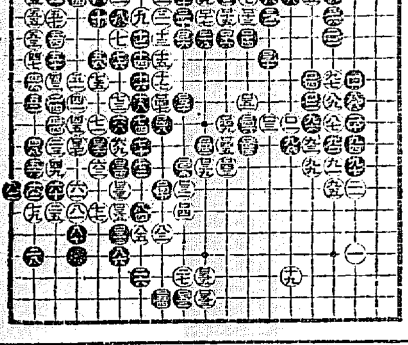
十一番 第一局の八

三段 山平壽氏　二子 大久保雅彥氏

自ル〇十四（百四十一）より黑ツ〇一（百六十一）迄手數

イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト チ リ ヌ ル ヲ ワ カ ヨ タ レ ソ ツ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九



第四二は二の三に付く

大阪株式時價 / 大阪切米 / 仁川米豆取引所

朝鮮郵船

○元山より北鮮各地經由雄基行
×京畿丸
×成鏡丸
○第二高運丸
○雄基丸
○咸鏡丸
○江原丸
○平壤丸
○元山ヨリ釜山鎭門行
○浦項行
○濟州島行
○木浦ヨリ多島海各島行
○仁川木浦行
○仁川群山木浦行
○海州行
○全南丸
○青島行（芝罘、大連經由）
○元山より釜山門司神戶大阪行
手安丸

釜山出帆廣告

汽船
○門司、神戶、大阪行
和歌浦丸　十二月十三日後五時出
立神丸　十二月二十二日後五時出
○元山、清津、浦鹽行
元山丸　十二月
和歌浦丸　十二月十二日後十時出
立神丸　十二月二十二日後四時出
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
天興丸　每月二日九日十四日廿一日廿六日（午後十時出帆）
○元山、西湖、新浦、城津、淸津行
第三琴平丸　月　日後六時出
○門司、宇品、神戶、大阪行
第三琴平丸　月　日後六時出
釜山港埠頭新町 本社 大池回漕部

共同汽船 仁川出帆

阿波共同汽船株式會社
之栄、大連行
共同丸 十二月十七日午後入港 十二月十八日正午出帆
本町四丁目（電話一七三番） 野口商會
仁川代理店 田口回漕部
京城代理店 河村運送店

尼崎汽船 仁川出帆

群山、木浦、釜山、下關、神戶、大阪行
秀吉丸 十二月廿三日後四時出
大有丸 十二月十八日後四時出
神代丸 十二月十六日後四時出
君が代丸 十二月廿一日後四時出
仁川港 杉回漕部